

東日本大震災から 5 年後の陸前高田市内 仮設居住者の抱える問題に関する調査研究

門脇恵太¹・宇佐美誠史²・元田良孝³

¹学生会員 岩手県立大学 総合政策学部 (〒020-0693 岩手県滝沢市菓子 152-52)
E-mail:g041m022@s.iwate-pu.ac.jp

²正会員 岩手県立大学講師 総合政策学部 (〒020-0693 岩手県滝沢市菓子 152-52)
E-mail:s-usami@iwate-pu.ac.jp

³フェロー会員 岩手県立大学 特任研究員 (〒020-0693 岩手県滝沢市菓子 152-52)
E-mail:motoda@iwate-pu.ac.jp

東日本大震災から 5 年が経過した。徐々に復興が進んでいるが、未だ仮設住宅での暮らしを余儀なくされていることや仮設退去後の人々の暮らしの変化やそれに伴う課題が残っている状況が続く。震災当初と比べて仮設居住者の暮らしや人間関係が変化してきたが、それらを定期的に把握することは、今後の被災地における復興政策において重要な意味を持つ。著者らは、2011 年度から毎年、陸前高田市民を対象に生活活動と交通に関するアンケートを実施している。今回は、仮設居住者の生活活動や交通手段や健康状態に加え、仮設住宅退去時の課題についても質問した。

その結果、仮設退去時の経済的負担や人付き合いに困る人が多いこと、仮設退去時に困ることが、これらから出る人とすでに出た人で違いがあることなどがわかった。

Key Words: temporary dwelling, vacate, communication, difficulties

1. はじめに

東日本大震災から今年で 5 年が経過した。復興が進み、仮設住宅からの退去者が増え、災害公営住宅への入居が進んでいる。しかし、未だ仮設住宅へ住むことを余儀なくされている人が多く存在している。仮設住宅は高齢者の生活や移動に適した立地ではないことが多い。震災以前に交友関係があった人と離れ離れになり、コミュニティから孤立して引きこもりとなっていることもある。このような状態が長く続けば健康状態が悪化する可能性がある。

図-1 に東日本大震災が発生した 2011 年から 2015 年までの岩手県内の仮設住宅の戸数と入居者数の推移を示す¹⁾。戸数、居住人数ともに年々減少しているため復興が進んでいる様子が見えてくる。しかし、未だ 2 万人以上が仮設での暮らしをしており、すべての仮設居住者がもとの生活に戻るには、まだまだ時間がかかると思われる。

著者らは、陸前高田市民の被災後の生活活動や交通手段について、2011 年から継続的に調査している。その結果、依然として多くの人が車での移動に依存していることと公共交通の利便性が低いことなどが明らかになった。

本研究では、仮設住宅での人間関係や仮設住宅を退去

した後に困ることなど、震災から時間が経過して顕著になってきた事象や課題を中心に調査をおこなった。調査結果から、陸前高田市民の将来考えている居住形態や、仮設居住者の抱える問題などを分析し、復興が進んだことにより顕著になってきた事象や課題を把握する。

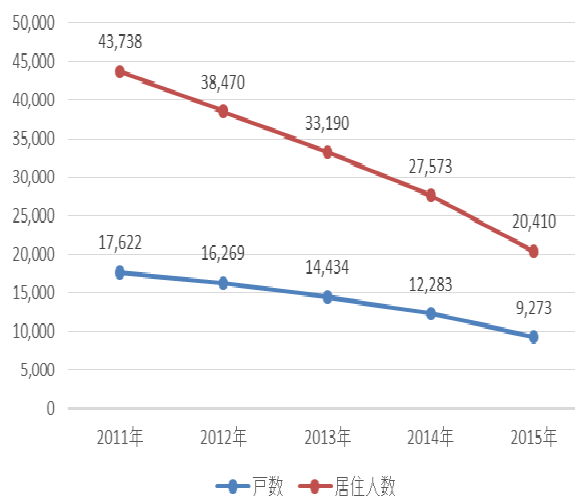


図-1 仮設住宅の戸数と入居状況の推移¹⁾

2. 調査概要

2015 年 12 月中旬～2016 年 1 月上旬の間にかけて、陸前高田市と岩手県立大学が「陸前高田市内にお住まいの皆様と生活や交通に関するアンケート」というアンケートを共同で実施した。

調査対象は陸前高田市内に居住している 16 歳以上 90 歳未満の方で、住民基本台帳から 1200 人抽出して、調査票を郵送にて配布回収した（宛先不明で戻ってきた分を除くと 1194 票が配布された）。513 票の有効回収があった（有効回収率 43.0%）。

調査項目は主に、①震災後の日常の活動（通勤・通学、買い物、通院、趣味・娯楽）の頻度や移動時間、交通手段、②路線バスや乗合タクシーの利用状況・評価、③BRT（バス高速輸送システム）の認知や利用状況、評価、④車の運転状況、⑤現在の生活や健康状態、⑥人付き合いや将来の居住形態予定、⑦仮設住宅退去時の課題、⑧属性である。

図-2 に回答者の性別、図-3 に回答者の年齢、図-4 に陸前高田市の人口構成を示す²⁾。回答者はやや女性の割合が多い。回答者は 60 代が 25%と一番多く、次いで 70 代が 20%となっている。人口構成と比較しても若い世代の回答が少ないことがわかる。

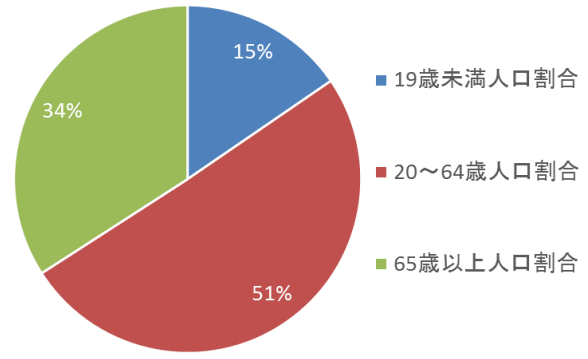


図-4 陸前高田市の人口構成²⁾

3. 公共交通の利用状況

図-5 は通勤・通学の交通手段を示している。自家用車を利用する人が 8 割以上おり、公共交通があまり利用されていないことがわかる。図-6 は通院の交通手段を示している。送迎による自家用車の利用を含むと、やはり自動車への依存度が高いことがわかる。通勤・通学時と同様に公共交通を利用する人は少なく、1 割程度にとどまっている。2015 年度以前の調査でも陸前高田市民の自動車への依存度は高いということが明らかにされている³⁾。

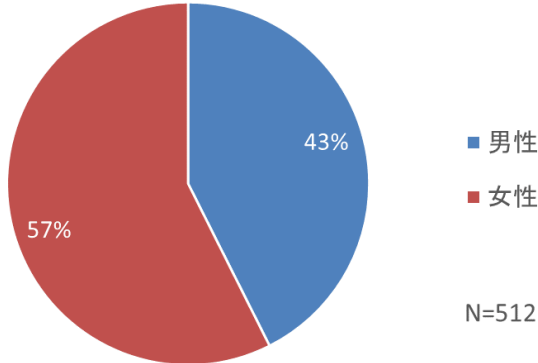


図-2 回答者の性別

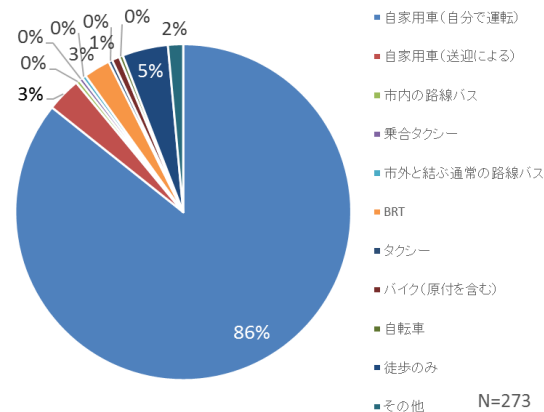


図-5 通勤・通学に利用する交通機関

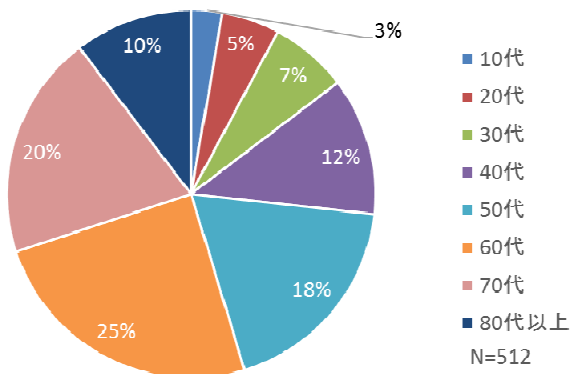


図-3 回答者の年齢

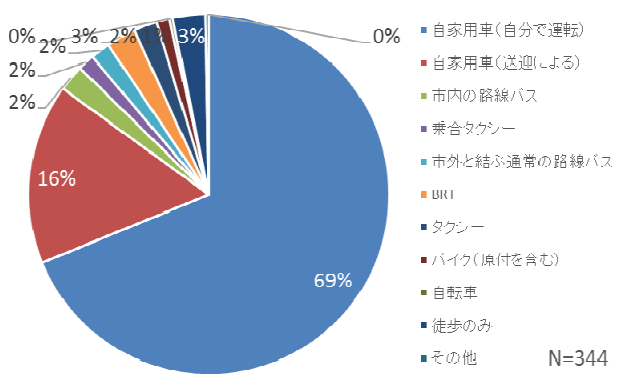


図-6 通院時に利用する交通機関

4. 仮設居住者の移動と健康について

仮設住宅は居住者の移動や生活に適さない環境であることが多い。例えばバス停や駅までの距離が遠いことや、近くに娯楽施設や商業施設が少ないため、自然と外出回数が減り、それが居住者の健康へ悪影響を及ぼしている可能性がある。

図-7 に「仮設住宅に住んでいる人は移動手段に困っている」という仮説をもとに「仮設住宅に住んでいるか」と「移動手段に困っているか」についてクロス集計を行った結果を示す。その結果、仮設住宅に住んでいる人とそれ以外の人では移動手段の困難さにあまり違いは見られないということがわかった。

図-8 に「仮設住宅に住んでいる人は震災以前より外出回数が減った」という仮説をもとに「仮設住宅に住んでいるか」と「震災以降、外出回数はどうなったか」についてクロス集計を行った。その結果、仮設居住者とそれ以外の人との外出回数の増減に大きな違いは見られなかった。

図-9 に「震災以前と比べて外出回数が減少した人は自己健康感を悪く評価する人が多い」という仮説をもとに「震災以降、外出回数はどう変化したか」と「健康状態はどうであるか」についてクロス集計を行った。その結果、震災以前と比べて外出回数が減少した人は増加した人に比べて健康状態が悪いと評価する人が多く、43.5%であった。

図-10 に「仮設住宅に住んでいる人は自己健康感を悪く評価する人が多い」という仮説をもとに「仮設住宅に住んでいるか」と「健康状態はどうであるか」についてクロス集計を行った結果を示す。その結果、仮設住宅に住む人の 46.6%が自分の健康状態を悪いと評価しており、仮設住宅以外の人より悪く評価する傾向があることが分かった。健康状態をよいと答えた人の割合も仮設住宅以外の人より少ないという結果になった。

以上のことをまとめると、仮設居住者とそれ以外の人では移動の困難さや外出状況に大きな違いはないということがわかった。しかし、震災以前より外出回数が減少した人は、増加した人に比べて健康状態を悪く評価する人が多いということがわかった。また、仮設住宅に住んでいる人もそれ以外の人に比べて健康状態を悪く評価することがわかった。外出回数と健康状態、仮設住宅に住んでいるかと健康状態にはそれぞれ関連があることが明らかになった。

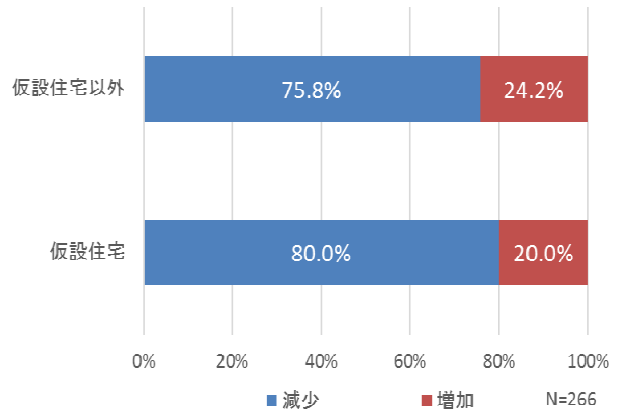


図-8 居住形態の違い(2分類)と外出回数(2分類)

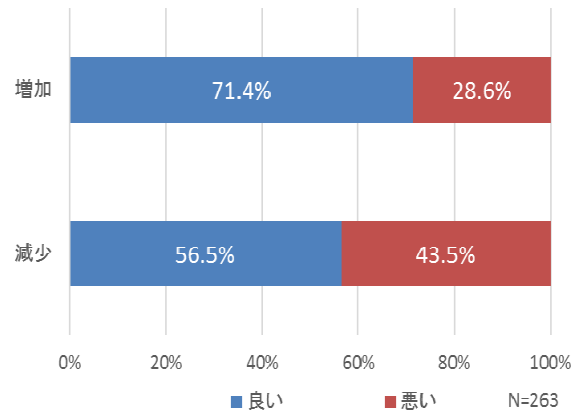


図-9 外出回数の変化(2分類)と健康状態(2分類)

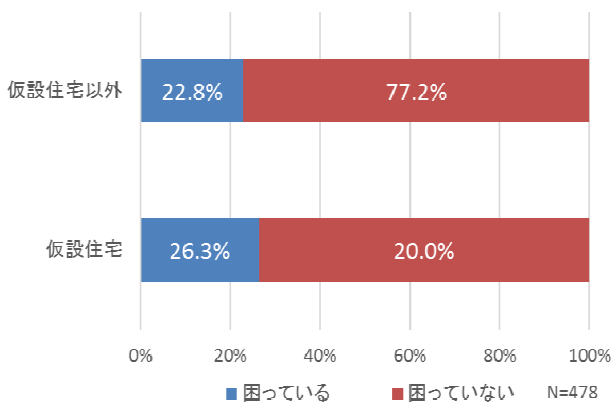


図-7 居住形態の違い(2分類)と移動手段(2分類)

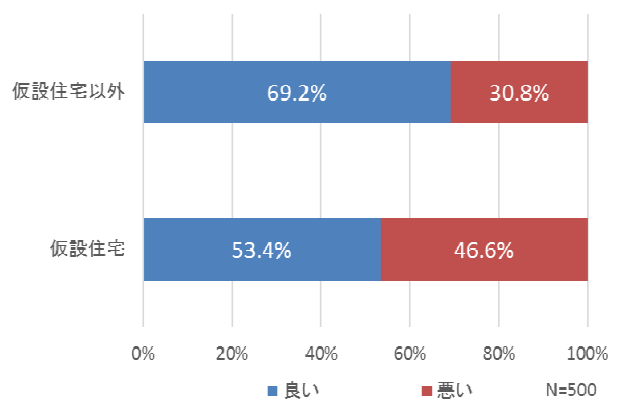


図-10 居住形態の違い(2分類)と健康状態(2分類)

5. 仮設住居の退去にかかる問題

仮設住宅の退去には様々な困難が付きまとう。新たな土地へ移住するための経済的負担や仮設生活で築き上げたコミュニティからの離脱など難しい問題が多いと思われる。

図-11 に仮設住宅退去後に考えている居住形態について示す。市内に自宅再建を考えている人が最も多く、ついで災害公営住宅への入居を考えている人が多かった。

図-12 に仮設住宅を出る際に困った(困ると思う)ことを示す。結果、「経済的な負担がかかること」と回答した人が 49 人で最も多かった。次いで、29 人の「人付き合いが難しくなること」が多かった。これにより仮設住宅には経済的な心配をする人と退去後の人付き合いに不安を感じる人が多く存在することがわかる。

図-13 に仮設住宅に住む人が退去の際に困ると思っていることと、実際に退去した人がその際に困ったことの違いはないかということを検討するためにクロス集計を行った。その結果、現在、仮設住宅へ住んでいる人が最も心配していることは経済的な負担で 28 人であった。しかし、仮設住宅退去後の人で見ると経済的な心配をする人が最も多いことには変わりはないが 21 人ととどまっている。また、仮設住宅を退去した人は、仮設住宅へ住んでいる人に比べて人付き合いに困難を感じていたり、買い物、病院への外出に不便さを抱いている人が多いということがわかった。

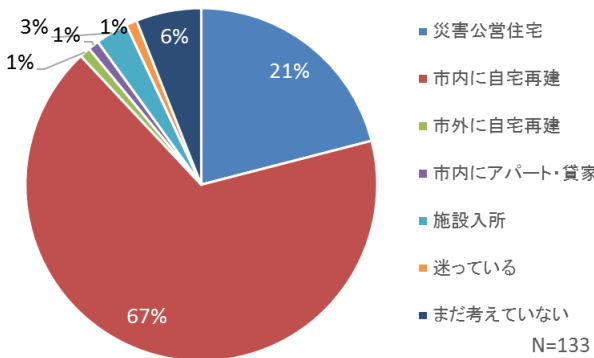


図-11 将来の居住形態予定

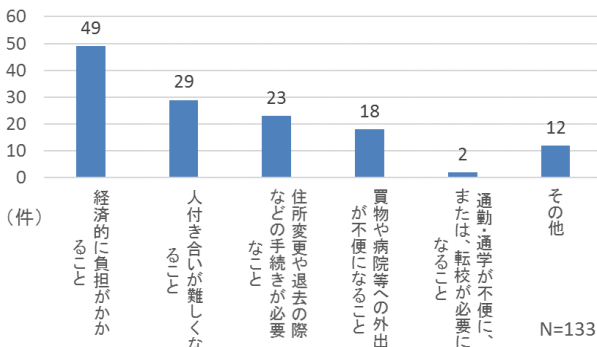


図-12 仮設住宅を出る際に困った(困る)と思うこと

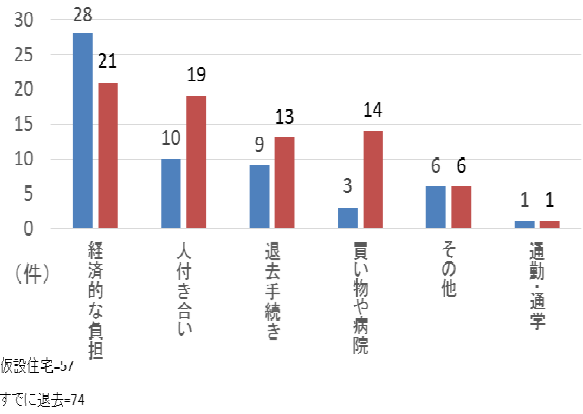


図-13 仮設居住者とすでに仮設から退去した人の困難の違い

6. おわりに

本研究では、陸前高田市民を対象に仮設居住者の生活活動や健康状態、仮設住宅退去に伴う困難について調査を行った。本研究で得られた主な成果を以下に示す。

- ・依然として、自動車利用率が圧倒的である。
- ・そのため、公共交通が有効に活用されていない。
- ・仮設居住者とそれ以外の人では移手段の困難さに大きな違いは見られない。
- ・仮設居住者とそれ以外の人では外出回数には大きな違いはない。
- ・震災以前に比べて外出回数が減少した人は自分の健康状態を悪く評価する傾向がある。
- ・仮設居住者は自分の健康状態を悪く評価する人が多い。
- ・仮設退去後は、市内に自宅再建を考える人が多い。
- ・仮設居住者が退去時に困ると思っていることと、実際に退去した人がその際に困ったことには違いがある。
- ・仮設退去後は、新たな土地での人付き合いや買い物、通院に困難を示す人が多い。

謝辞：本研究は、岩手県立大学総合政策学部3年の地域社会調査実習の受講生の協力で、アンケートの実施から集計作業などをおこなった。そして、陸前高田市民の皆様には、アンケートの回答でご協力いただいた。ここに期して感謝の意を表する。

参考文献

- 1) 岩手県 応急仮設住宅の入居状況 2015
<http://www.pref.iwate.jp/saiken/sumai/023870.html>
- 2) いわたの統計情報 市町村・男女別人口 2015
<http://www3.pref.iwate.jp/webdb/view/outside/s14Tokei/bn yaBtKekka.html?C=B0203&R=I002>
- 3) 宇佐美誠史, 元田良孝：陸前高田市応急仮設住宅に住む人々の生活活動や健康, 交通に関する調査研究, 第 33 回交通工学研究会発表会論文集, pp. 235-238, 2013